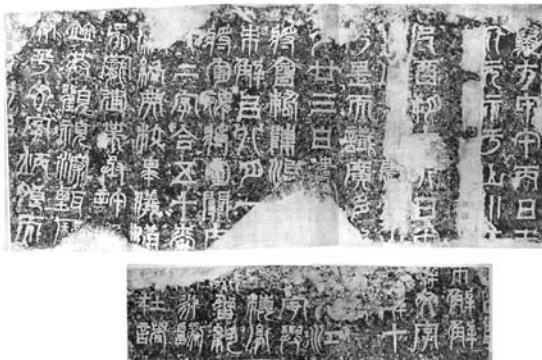


# てん はつ しん しん ひ 天 発 神 識 碑

天皇元年(276)  
(三国時代)

## 旧い書法様式の刻石④ 木 雜 伊藤 滋

図版②「天發神識碑・全体」

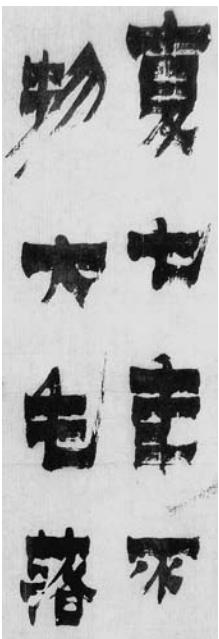


図版③「天發神識碑・上尊号碑・比較」

将

行

神



図版④「金冬心の書(部分)」



上尊号碑

天發神識碑

「天璽紀功頌」、また図版②に見られるように三石が積み重ねられた形から「三段碑」とも称される。三国時代の天璽元年(276)に建てられた。当時の能書家・皇象の書とい伝えられているが、確かな根拠はない。碑はもと

も円柱形でその周囲に文字が刻され、宋時代に三段に砕け、19世紀の初めまで江蘇の天寧寺に原石は伝えられたが、それがこの碑により失われた。それ故にこの碑の拓本の伝来するものは、非常に少ない。市中に見られるものは、

多くが後世作り直された翻刻拓本である。三国時代の碑の書風は、漢の隸書を受け継いだ「上尊号碑」のようなやや定型化した隸書が主である。「天發神識碑」は、古くから特異な書風として有名である。起筆や横画は、同時代

次号は、「中岳嵩高靈廟碑」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス  
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

の「上尊号碑」などと同じ用筆であり、文字の結構や縦画などは篆書の用筆を示している(図版③)。篆書と隸書の二つの書体が融合した書風である。当時の隸書を善くする人が、古い時代の篆書の様式を取り入れて、伝統的な莊厳な趣を表現しようとしたのではなかろうか。

清朝の金農(1687~1762? 冬心と号す)は、この碑の書風を巧みに取り入れ、独自の書を生み出した(図版④)。左頁主図版に示したのは、家蔵の原刻整拓本の部分である。



# 書道芸術院 平成の群像 (2012)



第51回毎日書道展「廻」

(85×176)

## 「前衛書との 出会い」



田 守 光 昭

るが、基本的に非文字性として考えるとよい。

見方としては漢字、近代詩、かな文字も同じで、墨色、バランス、余白、流れ、構成などを考慮すればよい。

今から46年前、旧国鉄城端線戸出駅で故深松海月先生の長男、兼一郎氏と共に勤務していた時のこと、兼一郎氏から書を習わないと、誘いを受け海月先生の門をたたいた。

当時は欧阳詢、顏真卿、像造の書を半紙に書くことからはじまり、3年経過した頃、海月先生は全紙を広げ、いきなり私に朝陽字鑑からの「繼」を書くよう言われ、何もわからないまま筆を走らせた。無心で書いたのが良かつたのか、先生は君はセンスがあり、将来有望だ、との言葉をいただいた。お世辞だと思いつつもその気になりこれが前衛書との出会いである。

その後、前衛書についての疑問点が湧き「前衛書は解らない」に直面し、先輩諸氏に問い合わせた。

前衛書には文字性と非文字性とがあ

るが、基本的に非文字性として考えるとよい。

見方としては漢字、近代詩、かな文字も同じで、墨色、バランス、余白、流れ、構成などを考慮すればよい。

更に、前衛書作品を何点か見比べると、其々の作品の良し悪しがわかり、見方も自ずからわかる。との助言を得、前衛書を理解し、面白味が出てきた。

書は線の芸術ともいわれ、古典研究を基礎として、筆、墨、紙等の素材を吟味しそのよう表現、構成するか、常に新しい発想で創造しなければ前衛書とは言えない。

掲載の写真作品は第51回毎日書道展の出品作ですが、段ボールを筆とし、強い線でリズミカルに書き上げました。諸先生方のお力添えで、会員賞を頂き、励みと思い出の一作となりました。

これからも書の革新的創造を目指し、現代書に挑戦しながら、前衛書の発展に貢献していただけたら幸いです。

# 書のひろば

理事長 辻元大雲

## 第49回書道芸術院単位認定 鳥取講習会開催



筆塚

昨年の富山講習に続き本年は山陰支局主管により鳥取県羽合温泉望湖楼・北栄町北条農村環境改善センターホールを会場に約150名の参加を得て開催。折からの猛暑の中、冷房の効いたホールにて漢字から前衛書までの実技、更に一般教養として院史、原拓書道史、今回から新たに設けられた書写の科目まで文字通り盛り沢山の講義を真剣に受講された。

名越蒼竹山陰支局長の指揮のもと、運営担当の皆さんのご協力によりスムーズに進行した。詳細は次号にて報告あり。

会場近くの公民館の庭に書道芸術院創立35周年を記念して建立された故岩垣翠城先生ご揮毫の「筆塚」が堂々と聳えていた。講習会の開催を寿ぐように。

昨年の富山講習に続き本年は山陰支局主管により鳥取県羽合温泉望湖楼・北栄町北条農村環境改善センターホールを会場に約150名の参加を得て開催。折からの猛暑の中、冷房の効いたホールにて漢字から前衛書までの実技、更に一般教養として院史、原拓書道史、今回から新たに設けられた書写の科目まで文字通り盛り沢山の講義を真剣に受講された。

名越蒼竹山陰支局長の指揮のもと、運営担当の皆さんのご協力によりスムーズに進行した。詳細は次号にて報告あり。

会場近くの公民館の庭に書道芸術院創立35周年を記念して建立された故岩垣翠城先生ご揮毫の「筆塚」が堂々と聳えていた。講習会の開催を寿ぐように。

## 書道芸術院秋季展公募審査

本年度の秋季展審査員候補公募作品の審査が、8月28日（火）浅草橋文具会館にて恩地会長、辻元理事長など7名の選考委員により行われた。

応募総数362点 217人から左記の通り

秋季菊花賞10名 入選41名が決定した。

秋季菊花賞は本展の白雪紅梅賞と同格の扱いとなり、選考は大変厳しい。入賞、入選された方々に心よりお祝い申し上げるとともに、惜しくも選外となつた方々には66回本展、また秋季展公募への再度挑戦を期待したい。

\* 秋季菊花賞（10名）

（漢）朝倉希代子 伊藤芳蘭  
奥藤春葉 佐藤桂香  
（か）星野栄子  
（現）岡崎翠園 佐藤初香 水野大祐  
（前）田子恵流 野口加奈  
\* 入選（41名）  
（漢）飯田翔春 生田珠翠 一森映泉  
伊藤紫邦 今関梨霞 上木祥琴  
大山和歌子 小川白柳 川嶋里美  
衣田琴草 木下玲窓 小林純風  
佐野静城 篠原楊流 田畠明琴  
仲倉憲堂 森田藤谷  
山田琴斎  
塩澤美紅 田村玲子  
石崎甘雨 大橋佑朋 尾田素紅  
金濱珀輝 齋賀裕美 佐々木一峰  
佐藤奎山 鈴木承琳 高橋佑豊  
坪田鉄修 田中梢翠 中村悠雲

（前）荒川空華 安藤楊風 岩沢芳仙  
大友紅蓉 小野朱星 龍井紫風  
川田弘子 神澤凌雲 中塙朱華

\* 財団役員 審査会員選抜

審査会員候補公募入賞入選 51点

会期 10月2日（火）～7日（日）

会場 東京セントラル美術館  
・表彰式・研究会（会場内） 2日  
午後1時～3時

・レセプション 午後4時～  
\* 推薦作家展（6名）

（漢）飯田春香 （漢）小浜大明  
（か）奥田瑞舟 （現）大平邑峰  
（篆）加藤如石 （前）大町青蓮

会期 10月2日（火）～7日（日）

会場 アートサロン毎日

## 書道芸術院創立65周年記念巡回

北日本（青森）展・甲信越（長野）展院創立65周年記念事業の役員作品巡回展も半分を越え、7会場目が北日本支局の青森展、8会場目が甲信越支局の長野県伊那市で開催された。

青森会場は青森市民美術展示館、市内中心部に位置し、会期が8月1～5日と折からの青森ねぶた祭りに重なり大変な賑わいの中、開催された。2日午後会場にて作品解説会が、理事長辻元大雲の進行で恩地春洋会長、大野祥雲・砂本杏花担当理事により行われ、詰めかけた参観者は参考になったことと思う。夕刻早めの祝賀懇親会には青森市長はじめ来賓各位が多く、会終了後はホテル前の特設栈敷にてねぶた鑑

賞まで賑やかであった。

3日には毎日書道会系賀専務理事と来年の毎日65回展巡回展会場（青森県美術館）の下見を行い、準備会にて坂本素雪本院評議員が実行委員長に選任され、今後の準備に入ることになった。

8月24日～26日、長野県伊那市にて甲信越支局での巡回展が開催され、24日午後理事長辻元大雲が会場にてティーカット、作品解説を行い、夕刻役員と懇親の宴を開いた。25日午後、恩地会長、下谷常務理事、板垣洞仙理事により作品解説会が行われ、夕刻マリエール伊奈にて矢ヶ崎辰野町長などをご来賓にお迎えし祝賀懇親会が開催された。小浜大明支局長を中心まとまりある

展覧会となつた。

北日本（青森）展・甲信越（長野）展院創立65周年記念事業の役員作品巡回展も半分を越え、7会場目が北日本支局の青森展、8会場目が甲信越支局の長野県伊那市で開催された。

青森会場は青森市民美術展示館、市内中心部に位置し、会期が8月1～5日と折からの青森ねぶた祭りに重なり大変な賑わいの中、開催された。2日午後会場にて作品解説会が、理事長辻元大雲の進行で恩地春洋会長、大野祥雲・砂本杏花担当理事により行われ、詰めかけた参観者は参考になったことと思う。夕刻早めの祝賀懇親会には青森市長はじめ来賓各位が多く、会終了後はホテル前の特設栈敷にてねぶた鑑



開幕式の様子（長野）



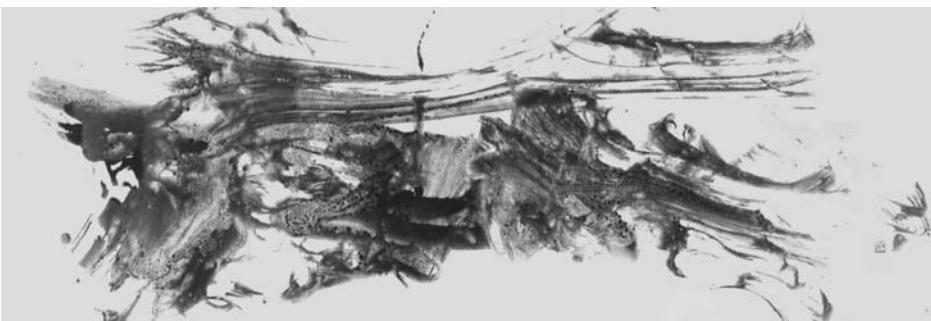
恩地先生による  
作品解説（青森）

# 前衛書 (六)

津田海仙

# 現代詩文書 (六)

斎藤理舟



2011年 書道芸術院秋季展「人と人」

津田海仙書

継続は力なり

師をはじめ、諸先生方、仲間の皆様から色々と教えをいただき、今の私がある。前衛書は自由ではあるが、古典の鍛錬を怠ららず、深く筆法を探究し、独創的な書をめざし、自分の意志、思想、感動など観る側の人に語りかける作品を作ることである。師がいつか話された、「五十、六十は湊垂れ小僧、七十歳で一寸一人前」の言葉に、自分はまだまだ湊垂れ小僧、これから一人前になるには、健康が第一、常に感動を新たに探究していかねばとしみじみ思う。院からの課題を寄りどころに、自らを振り返り、初心にかえって研究する謙虚な気持ちが大切だと心に言い聞かせて生きている。

3月11日に、大震災に合われた方々に対し改めて心よりお見舞申し上げます。辛く苦しい事がまだまだあると思いますが、早く立ち直って、本年は復興のよい年になりますようお祈りします。そしていつものように、院が一体になって、頑張り合いましょう。

終わりに、稚拙な文章にお付き合いください。  
さつて感謝しています。

## 21世紀の書

### —私の主張—



斎藤理舟書

現在、毎日どこかで書道展が開かれています。しかし多くの書展は、書に係わりのある人達にしか関心が無いようと思われます。殆んどの人は「書展に行っても何が書いてあるか分らないのでつまらない」という考えを持っており、書展の対象となる文字に関しては、「うまい」か「下手」かの評価に終始しています。更に今の世の中、自分の手で文字を書く機会が少なくなりつづり、小さい子でもキーボードを押すだけで、早く綺麗な文字が飛び出できます。伝達記録としての文字の役目は、手書きから機械へ完全に移行しました。という事は、手で書くという動作もその内無くなってしまうかも知れません。「上手」か「下手」かを評価の対象にしていた文字は、これから、どうなるのでしょうか?自分の手で書く事がや樂しさを、全ての人が持っていないければいけません。「上手」も「下手」も個性のうち、楽しく文字を書く事が必要です。白扇書道会では、毎年「童謡の書展」という展覧会をやっています。大人も子供も、好きな童謡を自由に書いて楽しむ展覧会、まさに漢字・仮名混じりの現代詩文書の原点です。楽しく書きましょう。

## 「刻字を楽しむ」

高 橋 秀

(篆刻・刻字部・審査会員)

た広い部屋でした。

刻字は先ず字を書く双鉤(かご字)を正確に、色彩や箔を施す・材料や用

具が板・鑿・箔・柿渋等簡単な作業で無い事を「如石先生」から詳しいお話を伺いその日帰りました。刻字の魅

力は書く事に加えて彫って立体として残るということでした。興味を持ち教

えて頂く事に決めました。次の日曜日から書道教室へ通うことにしました。

書道芸術院のテキストで先輩諸氏や子供たちと机を並べ臨書を、若返った気持ちで臨むことが毎週日曜日の日課になりました。

書道教室へ通うことにしました。刻字には古い篆文が作品作りの基本

とされることから篆書体の書き方を薦められました。予習は篆刻辞書を参考

にして、初めは小篆文字を書き、字形や筆法のお手本を頂きました。篆文は

小篆から金石文字まで幅広い字数があります。作品は文字を決めたら書体について良く調べ書風・線質造形等の検

新潟の鑿「国秀」を取り寄せて貰いました。

刻字の作品造りは、文面造りから装丁までの各々の過程には厳しさと樂しみがあります。又小さいものから大きな作品にも挑戦出来ること、部屋のインテリア要素にもすぐれていると言う事も魅力です。この楽しみをこれからも続けたいと思っています。

小学校低学年(四年生まで)の担任は青巣(書道)先生でした。当時習字に白い半紙が無く、わら半紙や新聞紙でかなや難しい漢字を習い、手が真っ黒になるのも忘れ夢中で書いた記憶があります。中学三年生までは毎年「書初め」を家の神棚に張ったことを暮れになると思い出します。その後はなかなか習字には無縁な人生でした。

刻字との出会いについて書いてみようと思います。

勤務地の関係で在京中は旧友の眺溟さんより書道展の案内を頂き鑑賞する機会が度々ありました。そんなある日、「刻字の個展」を開かれると言うので友人とお祝いを兼ねて伺うことにしました。榛名山の麓には坂東三十三所観音札所が二箇所在り、その一つの十五番白岩山「長谷寺」が母方の菩提寺であり、坂東開創八百年を記念して、山号額「白岩山」と般若心経の大好きな額(何れも金文字の刻字)を奉納し「加毫による『求友館』の大額が掲げられ

藤眺溪展」を企画されたとのことでした。書道展では刻字は数が少ないと、ここでは趣も違い野外での展示で、大作を含め七十数点もの作品が、本堂の周りに見事に掲げられていました。大勢の参拝者が賞賛の眼差しで鑑賞されておりました。以後神社や寺の山号額等に特別な興味を持つて見る様になりました。そんな時に、時間が出来たら書道をしませんかと便りを頂きました。不安の気持ちはさて置き、紹介された青峰会の書道教室を訪ねることにしました。「仕事の虫」の自分が時間を作れるのは別として何となるだろうの気持ちでした。書道教室は所沢市の文化財指定となる勝海舟の揮毫による「求友館」



討が大切との教えを受けました。

初めて刻字作品に挑戦する。

一文字で日刻版の「道」の仕上げで箔張りは手をとり教えて頂き完成しました。額に装丁した時は感慨が一入でした。又落款印にも興味を持ち篆刻講座に友人と入会しました。石に彫る

## 会員賞



# 特集 第64回毎日書道展

## 副賞



近代詩文書部 佐久間幸扇

驚きの会員賞第一報から約一ヶ月半たち、だいぶ落ち着いてきました。それでも夢のように一ヶ月半でした。夢をみている間に、四十年以上御指導いただいた、故種谷扇舟先生のお墓に御礼の報告に行き、先生は共に喜んで



佐久間 幸 扇

(近代詩文書部)

下さいました。

作品は、野に咲く花と自然を読み込んだもので、気候の良い時を選び、さわやかな気持ちで書きました。いつでも作品が書けるわけではなく、「今なら書けるかも。」という時をねらって書くのは大変です。なぜなら、そんな時は滅多にないからです。

色々な要素がからみあって頂いた会員賞。「ラッキー！」とばかりも言つていられません。じわりと重みが増してきます。今後も辻元大雲先生の御指導をいただきながら、芸術院に御恩返しが出来るような努力をする所存です。



U23毎日賞（副賞）墨



毎日賞（副賞）筆立て



会員賞（副賞）花入



U23新銳賞（副賞）墨



佳作賞（副賞）筆置き



U23奨励賞（副賞）墨



秀作賞（副賞）水注ぎ

第64回毎日書道展総評

辯元大雲

爽やかな作は注目を浴び、恒例の会期中会員賞受賞者による席上揮毫会でも本領を発揮、形式・内容を変えて2点揮毫で喝采を浴びた。

表彰式、祝賀懇親会が盛大に催された。文部科学大臣賞に輝いた漢字部創玄書道会の関口春芳理事、毎日書道顕彰の授与はじめ、多数の入賞者が喜びの受賞をされた。

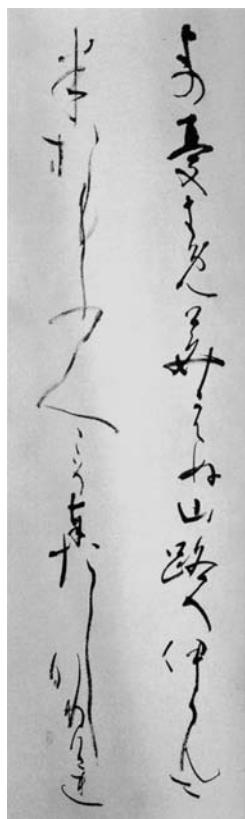
## 第64回毎日書道展公募出品点数（会友含む）および入賞数

項 部別	毎日展出品数		書道芸術品出品数		入選数		U23入選数		毎日賞		秀作賞		佳作賞		U23毎日賞		U23新锐賞		U23奨励賞		
	総数	U23	総数	U23	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	
漢字 I 類	5,886	232	182	10	3,745	106	108	5	44	2	118	2	212	4	2		3		11		
漢字 II 類	6,738	390	209	14	3,104	77	165	4	44	1	85	3	194	7	2		2		15	1	
かな I 類	2,111	114	106	9	806	56	50	3	2		13	1	42				2	1	6		
かな II 類	3,022	79	156	5	2,007	99	35	2	34	2	69	4	121	9	1				2		
近代詩文書部	6,464	526	517	55	3,594	264	228	20	47	3	107	9	214	15	3		6	1	20	2	
大字書部	2,260	237	187	14	1,258	117	105	5	17	2	38	4	77	7	2		2		10		
篆刻部	563	34			295		16		4		9		18							1	
刻字部	890	34	102	3	444	55	16	2	6	1	14	2	29	3						1	
前衛書部	1,660	67	481	39	880	262	28	17	11	3	27	8	53	15	1	1	1		3	2	
合計	29,594	1,713	1,940	149	16,133	1,036	751	58	209	14	480	33	960	60	11	1	16	2	69	5	

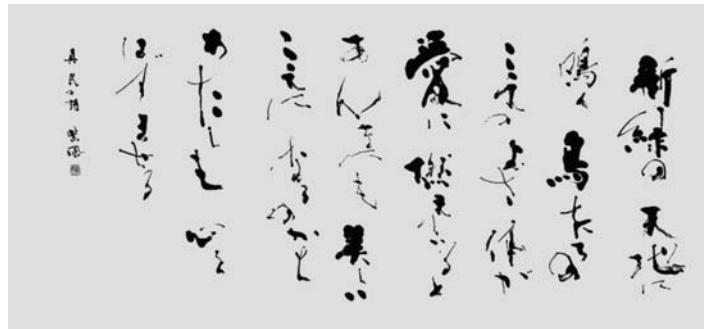
毎 日 賞



漢字部Ⅱ類  
菊池昌春



かな部Ⅱ類  
佐藤希雲



近代詩文書部 古谷紫風



前衛書部 米倉聲香

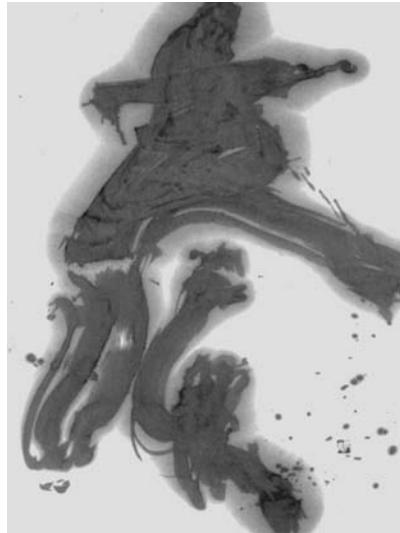


刻字部 篠田華所

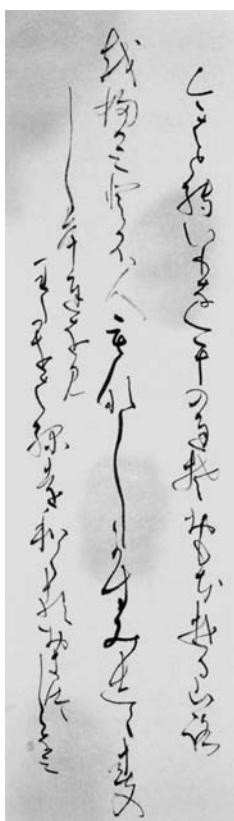
毎 日 賞



漢字部Ⅰ類 小澤美翠



大字書部 細田清燕



かな部Ⅱ類 高井順子



近代詩文書部 木村蕉苑

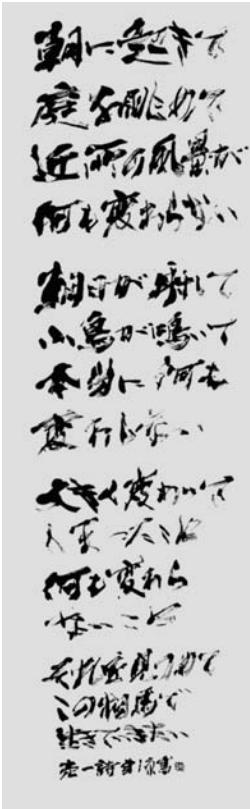


前衛書部 鈴木智広

特集：第64回毎日書道展



前衛書部 富中成山



近代詩文書部

小野寺 聖源

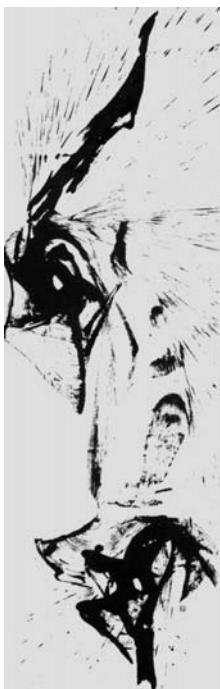


大字書部 岡 村 恵 窓

漢字部 I 類 橘 由 紀



U23毎日賞



前衛書部 後藤 恭

# 秀作賞受賞者

# 佳作賞受賞者

## 前衛書部

大友紅睿 大村直子 角田悠香  
工藤山房 斎藤白鳥 佐々木秀華  
下沢博美 鈴木栄洋 野口加奈  
平塚美保 藤田月華 伏津玲子  
藤原紅雲 森田美由紀 遊佐紅雅

- ・漢字部（Ⅰ類）
 

伊藤珠己 奎内光雪  
生田翠龍 上田琴秀 大川代香  
三木江竹
- ・漢字部（Ⅱ類）
 

田中翠恵 西川藤象 遊佐柏葉  
栗原信子 清水喜代子 中川紅蘭

- ・漢字部（Ⅰ類）
 

旭 築陽 小川白柳 武田華邦  
豊嶋 勝
- ・漢字部（Ⅱ類）
 

秋山久枝 新谷嵐泉 小林嘉江  
酒井恵子 鈴木たえ子 田村玲子  
都倉むつみ 野村 知 治田芳江

## かな部（Ⅱ類）

小野原紅華 佐藤星沙 嶋田麗雲  
白地清柳 武山櫻子 新田雄山  
三宅佳峰 渡辺 浩

## かな部（Ⅰ類）

大崎香織

市川紫泉 伊藤美相 岩田誠華  
大野清玉 乙倉翠芳 小野幽景  
小野寺久美 菊池喜美子 北嶋青湖  
國嶋春枝 坂本龍水 佐々木華鼎  
中尾祐次郎 本郷清浩 水野大祐

- ・かな部（Ⅱ類）
 

栗原信子 清水喜代子 中川紅蘭
- ・かな部（Ⅰ類）
 

秋山久枝 新谷嵐泉 小林嘉江  
酒井恵子 鈴木たえ子 田村玲子  
都倉むつみ 野村 知 治田芳江

## かな部（Ⅰ類）

大崎香織

市川紫泉 伊藤美相 岩田誠華  
大野清玉 乙倉翠芳 小野幽景  
小野寺久美 菊池喜美子 北嶋青湖  
國嶋春枝 坂本龍水 佐々木華鼎  
中尾祐次郎 本郷清浩 水野大祐

## 大字書部

小林椿寿 佐野文子 菅沼憲園  
高安翔琴

## 近代詩文書部

市川紫泉 伊藤美相 岩田誠華  
大野清玉 乙倉翠芳 小野幽景  
小野寺久美 菊池喜美子 北嶋青湖  
國嶋春枝 坂本龍水 佐々木華鼎  
中尾祐次郎 本郷清浩 水野大祐

## 前衛書部

赤羽蘭徑 高松香風  
牧川逢扇

## 大字書部

揚田正瑚 長谷川裕子 樋井鷹春  
牧川逢扇

青木かよ 新井虹雪 伊藤有津  
井上恵子 大野礼子 後藤法明  
佐藤紅茜 嶋 由香

## 前衛書部

葛西大介 田代明眸 野登蒼山

# U23 獎 励 賞

## 前衛書部

藤崎桜花 横田桂花

## 刻字部

赤羽蘭徑 高松香風  
牧川逢扇



祝賀会での理事長あいさつ



毎日賞受賞者の皆さん

## 役員作品巡回展

併催 第35回鳥取県中央  
書道連盟会員作品展

会期 平成24年7月25日(水)～28日(土)  
会場 倉吉博物館

寒行委員長（山陰支局長）

名 越 苍 竹

今年の山陰地区の梅雨明けは例年よりもかなり早く、猛暑の続く中での開催となりました。本来ですと山陰支局展を併催すべきところですが、例年この時期に標記中央書道連盟会員作品展を開催しており、その出品メンバーが山陰支局会員とほぼ同じであるため、新作を発表する同展を併催するのが適当と判断しました。

山陰支局は全員が漢字部に所属しており、他部の優れた作品に接する機会が限られているため、書道展の全ジャンルが一度に鑑賞できる今回の役員作品巡回展は、私たち山陰支局のメンバーにとって貴重なものとなりました。



祝賀懇親会での辻元理事長あいさつ



巡回展開幕式での来賓祝辞

24日は作品搬入に統いて陳列作業を行い、夕方6時から展覧会の祝賀懇親会を開催しました。辻元大雲書道芸術

院理事長と生田翠龍中央書道連盟会長による主催者あいさつ、名越蒼竹支局

長の主管あいさつに続いて、地元倉吉

の石田耕太郎市長様と鳥取県書道連合

会の柴山抱海会長様による来賓祝辞をいただき、乾杯の後にはじんけんく

れ、和やかなうちに盛り上がりのある懇親会となりました。特に13名の来賓の皆様に感謝申し上げたいと思います。

翌25日は午前10時から書展の開幕式

を倉吉博物館で開催しました。地元新

聞社やケーブルテレビ社が取材する中、主催・主管あいさつの後、石田耕太郎

倉吉市長様と新日本海新聞社中部本社の石田耕太郎市長様と鳥取県書道連合会の柴山抱海会長様による来賓祝辞をいただき、乾杯の後にはじんけんくりました。

開幕式終了直後、巡回展作品展示の部屋で作品鑑賞会を行いました。初め

取締役代表の佐伯健二様から祝辞を頂き、テーブルカットに移りました。来賓の中には倉吉教育委員会教育長福井伸一郎様、倉吉博物館協議会会長名越勉様、倉吉博物館長根鈴輝雄様の顔もあ

りました。

開幕式終了直後、巡回展作品展示の部屋で作品鑑賞会を行いました。初め

に恩地春洋会長が歴代会長の作品解説をされ、特に前衛書や刻字という山陰支局ではなじみの薄い元会長の思いや作品の見所をお話くださったことは意義深いことでした。次に辻元大雲理事長から全般的な解説を受け、さらに宮澤梅径常任顧問・大野祥雲常務理事・



作品鑑賞会  
恩地会長による歴代会長作品の解説

小竹石雲常務理事の方々からもお話を聞きました。部門が違えば尚更ですが、同じ漢字部でも作風が異なる作品を前にして、その見所を解説していただけたことは私たち山陰支局のメンバーにとっては一度に多くのものを学ぶことができ、大変有り難い機会となつたこ



作品鑑賞会  
大野常務理事による作品解説

芸術といえども、私たちは己を客観的に知る必要があります。そのためには他と比較するところから出発しなければなりません。そうすることで初めて自分の持ち味や改善点を自覚することができると思われます。5年に一度



作品鑑賞会  
恩地会長による歴代会長作品の解説

やつてくる巡回展はその大きなチャンスとなりました。  
最後になりましたが、本展を開催するにあたり、本部役員の方々をはじめ、他の総局支局の皆さんから絶大なご協力と応援をいただいたことに感謝申し上げます。



作品鑑賞会  
宮澤常任顧問による作品解説

## 役員作品巡回展

併催 北日本支局展

会期 平成24年8月1日(水)～5日(日)  
会場 青森市民美術展示館  
1階～4階まで全館

実行委員長（北日本支局長）

坂 本 素 雪

会期が青森の「ねぶた祭り」と重なり又、東北一円が夏祭り一色で、他県からの来場者には交通手段や宿泊確保が非常に困難を極めたかと思う。2月

25日に最初の打ち合わせ会議を始めてから数度の会議を経て何とか無事開催に至った。役員巡回作品47点と北日本支局作品147点、プラス物故者作品4点の、計198点の展示。7月31日搬入で1階に役員巡回展作品と物故者作品、2階は審査会員と会員候補の作品。3階は無鑑査、4階は一般公募の作品。全館貸しきりの快適な空間でしたが、肝心の1階でトラブル発生。壁面は問題ないのですがパネルの高さが足りず軸

物が地面に着いてしまう。急速、ホールセンターに行き角材を加工し会場へ。

その為、搬入に時間が取られてしまいハラハラのスタートであった。

書道評論家からの講評いただいている

が、今回、北日本支局では、多少真似てはいるが、書道評論家や書道界以外の方から現在の我々の書作品をどのように見たり感じたりしているのだろう

か、もしかしたら書道界だけで独り善がりしているのではないかと言う思いから、美術団体、二科会の事務局から七戸町の鷹山字一記念美術館の館長を経て、一昨年青森県立美術館の館長に就任した、鷹山ひばりさんに展示作品の中から自分の心に感じた作品7点ほど講評していただいた。約1時間かけ

て鑑賞し、足を止めた作品のほとんど

が準大賞や白雪紅梅賞などの作品で少し安堵したが、鋭い「目」に作品レベルを高めなければと痛感させられた。

8月1日のスタートでしたが2日午

後1時30分から辻元理事長、恩地会長、大野常務理事の作品解説が始まり、巡回展もだんだんと盛り上がりを見せな

がらも、16時からの祝賀会会場である



鹿内博青森市長の挨拶



実行委員と来賓の方々の集合写真

リッチモンドホテル青森5階（クロスタワー・ブリリアンテラス）へ。

「ねぶた祭り」の準備を眼下にしながら祝賀会が始まり会長、理事長の挨拶、また来賓の鹿内青森市長の熱心な「ねぶた祭り」の説明に、徐々にお祭りムードに高揚していった。



大野祥雲先生の作品解説

辻元大雲理事長の作品解説



18時に祝賀会も無事終了し、「ねぶた祭り」観覧席へ移動。いよいよ19時

「ねぶた祭り」スタート。耳を劈くばかりの太鼓の響と共に闇に浮かぶ武者の姿。その眼光が胸に突き刺さる。躍

動するハネトの狂喜乱舞。ネブタ囃子が哀愁を誘い、みんな叫び歓喜した。

なかなか興奮が醒めないまま第二次会、第三次会へと…又の青森再会を約束して祭りの中に散っていった。5日の最終日まで、出品者の会場当番も連携しな



「ねぶた祭り」を観覧する恩地先生、村野先生他、院の先生方

女性「ネブタ絵師」の御披露目作品、初登場



がら勤め、書道芸術院会員の交流と団結力にも繋がり、大きな成果を得た巡回展であった。

## 特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

〈解説〉 中国にとって孔子は偉大であった。その孔子を尊重する態度は、神に対するのに等しく、徳を称える廟もいくつか出来、代表的なのが、「孔子廟堂碑」であろう。虞世南は、弘文館学士であり、人格高潔、性質沈着、第一級

の人物である。情緒を持って、宫廷芸術らしく書美を發揮している。虞世南の書として伝わっているものには、墨蹟の「汝南公主墓誌」「臨黃庭經」等、拓本では、余清齋帖に刻されている「積時帖」などがある。

（編集部）

聖期。大唐運膺九五。基超七百赫矣王猷。蒸哉景命。鴻名盛烈。無得稱焉。皇帝欽明。

（※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
（押印のみ也可））

用紙 半紙普通判  
左の法帖の中から  
何文字臨書してもよい。  
(掲載部分以外は不可)



毎日展公募サイズ以内・縦横自由  
左記の掲載以外も可

〔注〕・かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

・落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

・用紙は半紙普通判(料紙可)〈たて長に使用〉

別紙を裁断して貼付也可。半懐紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

〈よみ〉

をのといふところにすみはべりける

ときによめる

あきのやまもみぢをぬさとたむくれば

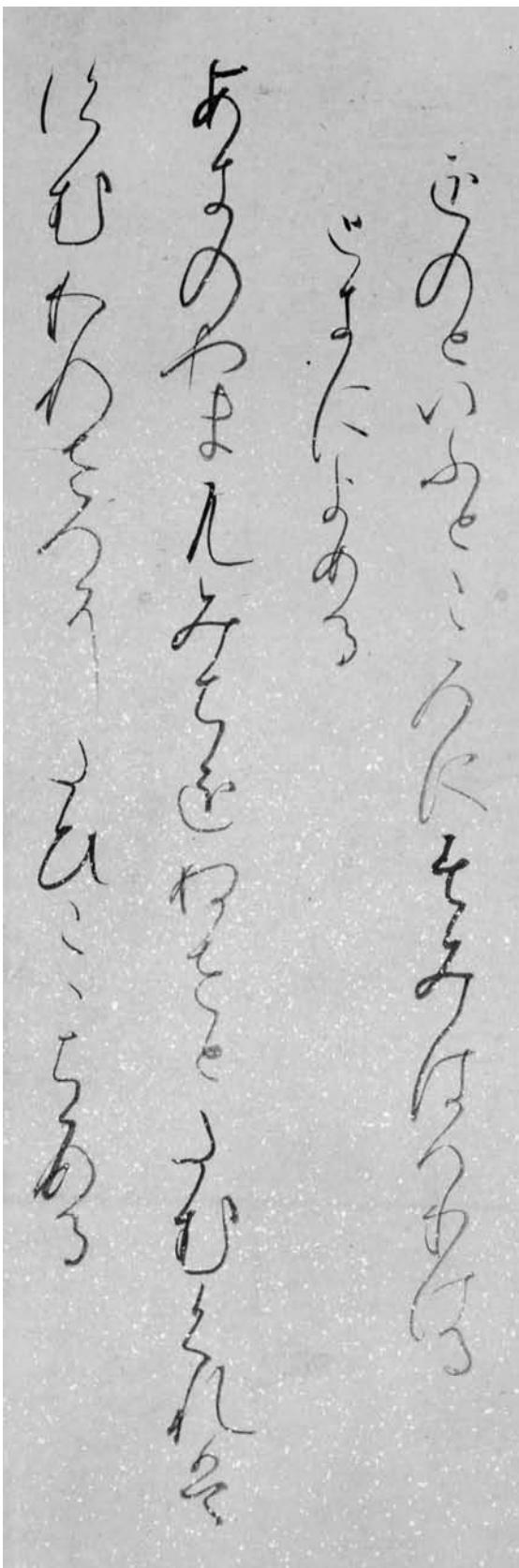
すむわれさへぞたびごちする

〈解説〉 高野切第一種の料紙は、白麻紙といわれるが、奈良朝写経に見える麻紙とは違い、さらに緻密で良質の紙と見受けられる。照明の角度によっては、その紙面が燐然と輝いている。第一種・第三種とともに、料紙は同一のものである。

筆線の太細の変化から推して、やや筆管を傾けた側筆によるものであり、それが連綿の斜めの線を強調させる結果になったものと思われる。その文字には構築性があって氣骨を感じさせる。

現在では、宇治の平等院鳳凰堂の色紙形(源兼行筆)の書風から推察して第一種の筆者も兼行と確認され、したがって書写年代も十一世紀半ばという概略が導き出されている。

(編集部)



(93%縮小)

半田 藤 扇

彈琴復長嘯  
(だんぎんふくちょうきょう)

王維「竹里館」承句

琴をつまびき息ながに詩をうたう。

今回は、今まで勉強してきた纏めとして、細線の書きが厚みある

太い筆勢と、どのようにマッチで  
きるかをテーマに行・草体で書いてみました。とかく細線は軽く甘い線になります。

細線こそ厳しく、尚かつ紙にい  
込む生きた線が引けることを望み  
ます。筆はむじなの長鋒。

前号で申しましたが、うわすべ  
りせずにこて先だけでなく身体全  
体で書いてみましょう。

※弾の字ですが、草書で書く時は  
つくりの部分↓ 2つ  
打ってください。① ②

3つ打つのはまちがいです。

弾琴復長嘯 よみ(弾琴復た長嘯)

書体=自由



習い方解説 (六)

小林琴水

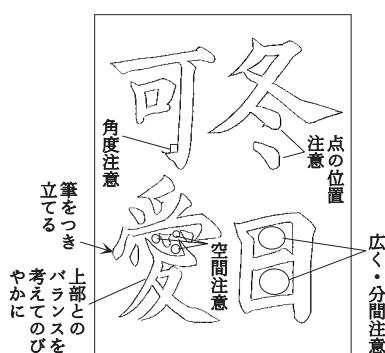
冬日可愛  
(冬日愛すべし)

最終回、画数の少ない語字、「冬」  
終筆の点の位置、角度に注意。  
「愛」は画数が多いので筆先をき  
かせて、最後の「夕」の部分は、  
立てる様にして、しっかりと上を  
ささえる様にして下さい。

可  
冬  
愛  
日

琴 水

書体＝楷書



冬日可愛 よみ(冬日愛すべし)

かな規定 初段以上【十月十五日締め切り】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

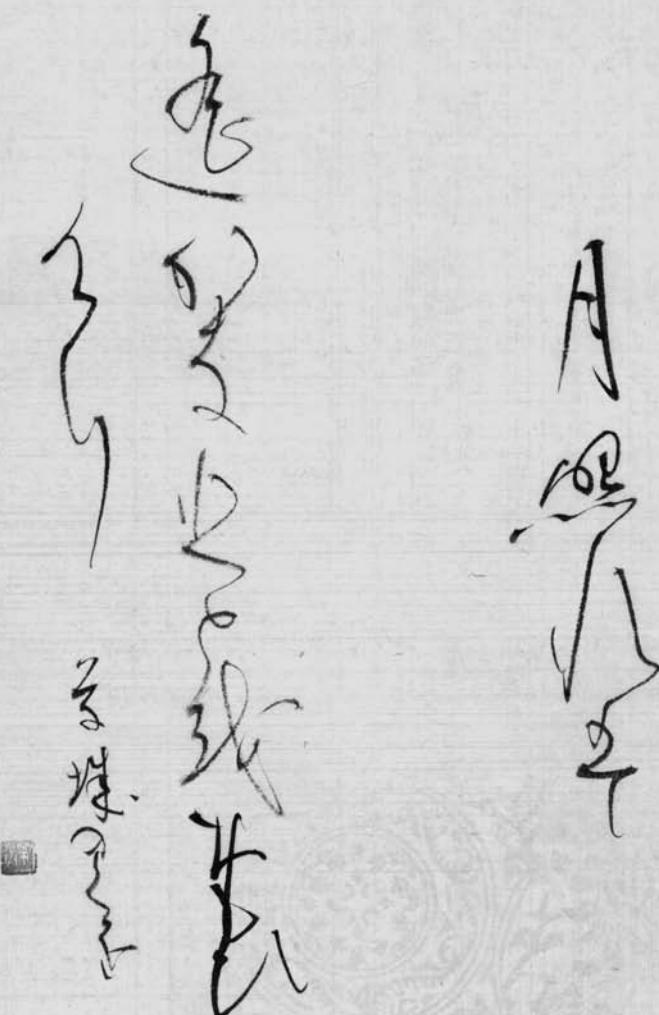
### 習い方解説 (六)

下谷洋子

月照れば遙かなひとをおもひけ  
り

(日野草城)

構成・字形など、とてもバランスよく出来ていても大きさを感じない、魅力を感じない作品があります。それは呼吸にあると思います。



先日の「熊谷恒子の世界」展で拝見した、小字の呼吸の素晴らしさがまだ目に焼きついています。全てが、あの膨大な作品群にあるような気がします。倣書も、型にはめすぎず自分のリズムを取り入れた方法に美意識を感じました。息というか気が、心に食い込んできます。

書が生きているとは、姿、形も大事ですが、息にあるのではないでしょう。それにはまず、身につけること、知る・覚えるではなく、身につくまで努力する……他に方法はないようです。

よみ方 月照れば(盤)遙かな(奈)ひ(悲)とを(越)おもひけ(介)り

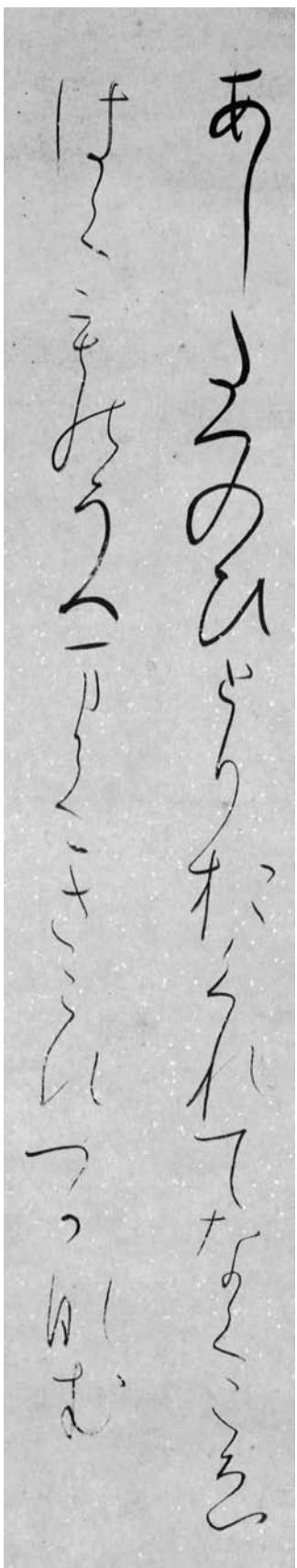
草城のく(久)を

創作

かな規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方

あした(多)づのひとりお(於)く(久)れてなく(久)こそ  
はく(久)も(毛)の(能)うへま(万)で(弓)きこえ(江)つが(弓)な(那)む

### 習い方解説 (三)

木村 東舟

白萩のしきりに露しきりにゆをこぼしけり

(正岡子規)



かな条幅規定【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村 東舟選書

よみ方 白萩のしき(幾)り(利)に(一)露を(越)こぼ(本)し(志)け(希)り

創作

\*たて形式に限る

のように、出来るだけ文字の変換を  
したくないのですが、表情の豊  
かさから変体仮名を取り入れまし  
た。少ない文字群の中でも、遠近  
感を出すためには、墨の潤滑が必  
要です。渴筆部分は、線を細くし  
過ぎると貧弱に見えてしまします  
ので、筆圧をぬき過ぎぬように加  
減して書きましょう。

西林乘宣



侍兒扶起嬌無力 始是新承恩澤時  
(侍兒 扶け起せば嬌として力無し、始めて是れ新たに恩詎を承くるの時。)  
(長恨歌・白居易)

書体=自由



(禮記)

書体=自由

### 習い方解説 (六)

大野祥雲

人は好んでその悪しきを知ることを得ない。  
最初の人は大きく書きましたが、之と同じく概形は偏平です。子を細め、文字の上下を詰めた関係で七字が比較的楽に收まりました。左右の余白を生かすことが大切です。用筆は自然ですが、書はやはり線質。細い線には鋭さを、太い線には響きがほしいですね。

篆隸楷行草とやってきて最終回は、「馬王堆帛書」を参考にしました。帛書とは「黄褐色の目の細かな絹に墨で書かれたもの」とあります。原典を眺め、字形と線を頭に入れてから書いてみましょう。「木簡」でも構いません。(大意)温泉から上がった彼女を侍女が抱き抱えようとする、なよなよとして艶しく、ここで始めて天子の寵愛を受けることとなった)

習い方解説 (六)

稻垣 小 燕

月の沙漠をはるばると

旅の駱駝がゆきました

金と銀との鞍置いて

二つ並んでゆきました

加藤まさを作詞・佐々木すぐる作曲

小燕書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

落着いた、スケールの大きな表現に  
したいと思いました。

長い歴史のある毛筆にくらべて  
ペン字の歴史は遙かに短いですが  
私たちの生活には必要不可欠なものとなっ  
ています。

漢字、仮名の古典の学習から、基本  
をしっかりと身につけて表現に結びつ  
けたいものです。

ペン字の学習は実用のためにあります  
ので正しく整えて書くこと、読みや  
すぐ丁寧に書くことが大切です。

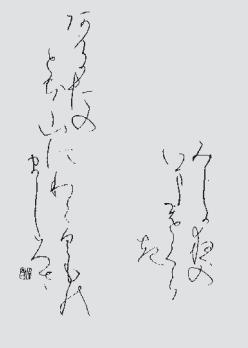
そして美しく格調高い表現をするこ  
とができる最高でしょう。  
文字からは書き手の様々なことが伝  
わってまいります。日々の生活を大切  
にしてご精進されること願っております。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

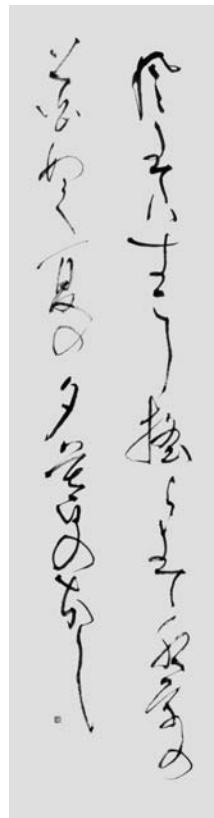
今月の

# ホープ作品 各部総評

No. 615



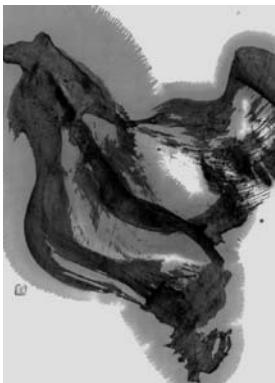
かな部 師範 濱田 竹雪  
柔らかな墨色での淀みない運筆  
が美しく、十分歌意に適い高度な  
作品となった。余白美が効果的。  
◎かな部総評 熟達者の中に、変  
体かな本の誤読多く残念。実物大  
の手本がなくとも、布置よく表現  
できる工夫を望みます。(明子評)



前衛書部 特選 宮城 凉萩

淡墨で滲みを生かした作品で、  
躍動した書線で統一されており、  
充実した冴えのある作

◎前衛書部総評 濃墨が多く紙に  
も工夫が見られたが、落款の大小、  
布置に細心の注意を。(仙草評)



漢字条幅部 師範 吉田 真理  
かな条幅部 準師 別府 信子  
骨格の確かな運筆で筆の表裏を  
巧みに使い、気力に満ちた秀作。  
これにリズムの遅速加えてほしい。  
◎かな条幅部総評 オリジナルも  
大切なのですが、字組みや連綿など  
かなの基本を踏まえていないと  
作品にはなりません。(洋子評)

◎漢字条幅部総評 全般にやや低  
調の感あり。書体、書風を色々研  
究して意欲的な取り組みを。更に  
用具用材の工夫も。(大雲評)



◎現代詩文書部 特選 斎賀 裕美  
言葉が筆を通して語りかけてく  
る。一瞬、審査の手を止めてしまっ  
た。最高傑作である。

◎現代詩文書部総評 紙と墨の融  
合が美しい線質を醸し出すと考え  
る。もう少し研究を。(素雪評)

現代詩文書部 特選 斎賀 裕美

ペン字部 師範 鶴田 恵子  
一字ずつ丁寧にかつ懐を広く保  
ちつつ落款まで氣脈が通じ、安定  
感溢れ、温雅で品格の高い作品。  
布置の良い作品が多く良い傾向。  
限られた紙面に「美しい表現とは」  
を常に心がけて。(和楓評)



漢字部 師範 一森 映泉  
◎漢字部総評 大胆な筆法で渴線を多用し、明  
るく、活気に満ち、潑刺としてい  
る。瑞々しい作品で輝きがある。  
◎漢字部総評 上級課題木簡風が  
多かった。これを機に隸書特有の  
筆法を本格的に学んで下さい。表  
現の幅が広がります。(萬城評)

ホープ作品  
各部総評

かな部 師範 濱田 竹雪  
柔らかな墨色での淀みない運筆  
が美しく、十分歌意に適い高度な  
作品となった。余白美が効果的。  
◎かな部総評 熟達者の中に、変  
体かな本の誤読多く残念。実物大  
の手本がなくとも、布置よく表現  
できる工夫を望みます。(明子評)

骨格の確かな運筆で筆の表裏を  
巧みに使い、気力に満ちた秀作。  
これにリズムの遅速加えてほしい。  
◎かな部総評 オリジナルも  
大切なのですが、字組みや連綿など  
かなの基本を踏まえていないと  
作品にはなりません。(洋子評)

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

漢字 (八街) 川嶋里美

「鳥語」



川嶋里美書

178×56cm

かな  
(奥田) 小林純風

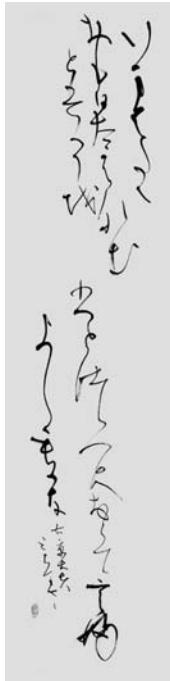
「百人一首より」

◆少々怪しい文字もあるが、二段に分けた難しい構成をバランスよく整えた。さらに線の深さを求めたい。  
(洋子評)

◆線の切れも良く最後までよどみなく流れるが、濃淡の変化が少ないようだ。中心部に変化ほしい。  
(蒼玄評)

◆「上下」一段に分けて大きな運腕でダイナミックに表現。文字造形にやや無理を感じる所あり。更に研究を。  
(大雲評)

◆大きな紙面をちらしの変化のもたせ方で楽しく拝見、墨つぎのここぞという所でゆったりと表現見事。  
(倫子評)



178×45cm

小林純風書

前衛書 (大拙)

菅原祥華

「唸り」

◆筆が表現してくれる動きを体で理解しているよう。終筆に近づくと上部に対しても重い感あり。バランスを。(倫子評)

◆長峰の筆を自由に使い白と黒が鮮かだ。最終部少々書きすぎの感はあるが最後までリズムが一貫した。  
(蒼玄評)

◆呼吸の長い渴筆が前衛ならではの空想をかきたてる。多面的な渴線の表現が、何とも不思議。  
(洋子評)

◆書き初めの上部から徐々に広がりを見せて大きく展開する。下部に余白あれば尚よかつたか。  
(大雲評)



178×48cm

菅原祥華書

◆やや粗さが目立つが、エネルギーッシュな筆致とねばり強さが雰囲気を醸し出す。堂々とした力作。  
(倫子評)

◆堂々とほとばしる氣の響きが楽しめる。嫋やか且つ自然なりズムで調和がとれて、上手い方だと思う。

(洋子評)

◆動きがあり線に強さを感じる。墨継ぎ時にもっと墨を含ませると落ち着きも出るが若々しい作である。

(蒼玄評)

# 「小谷翠の詩」 千葉紅雪

現代詩文書 (玄穹)



千葉紅雪書

178×56cm

(安波) 鈴木英晴



178×56cm

鈴木英晴臨

## 「孔子廟堂碑」

- ◆ ゆったりとした氣を感じ取り組む姿が想像される。形だけでなく鋭く書かれている線質が欲しかった。(倫子評)
- ◆ 縦画が少々弱いように思うが古典の特徴を巧く捉え、丁寧に鷹揚に表現した。落款が小さいのでは? (洋子評)
- ◆ 見慣れた基本的な古典である為、平凡になるのは仕方ないが、少しひとりと柔らかな雰囲気がよい。(大雲評)
- ◆ 温和な筆致で暖か味を感じさせる臨書である。落款は草書ではつりあいが取れないように感じた。(蒼玄評)

前衛書 (声香)

遠藤華香



135×70cm

遠藤華香書

## 「舞」

- ◆ 上部の回転から左の黒の固まりに大きく動いた構成は成功した。最後のまとめで筆をまとめすぎたか。(蒼玄評)
- ◆ 瞬発的な激しいリズムで紙面に動きを与えている。下部や尻切れトンボの感があり。更なる飛躍を。(大雲評)
- ◆ 筆を持つ手の動きでなく体全体で筆と動かす大きな構え、所せましと表現され私も一緒に体が動く。(倫子評)
- ◆ まず、空間把握にセンスを感じる。線質も社中色少なく新鮮。墨塊と渴筆、曲と直が戯れて踊る。(洋子評)

- ◆ 歯切れよい大胆な筆致で印象的な作。やや線質の浅さが感じられる。淡墨の生かし方を工夫してみては。(大雲評)
- ◆ 前衛的方法を取り入れ、スカッとした思い切りのよさが嬉しい。現代詩の心象表現の醍醐味かと…。(洋子評)
- ◆ 墨色も良く大字の潤渴も構成。誕生の頭の力強さが空間を上手にうめている。自然の流れを強く表現。(倫子評)
- ◆ 読む前に紙面全体の動きを構成。誕生の頭の力強さが空間に響き火花のように空間を圧する。(蒼玄評)

総出品点数  
86点

創作の部  
〈特選候補者〉

〔漢字〕

千葉影山 扇葉  
墨宣 小林 翠芳  
苑書 武山 櫻子  
「かな」  
高崎 小峰美加子  
前橋 碓井 弘  
翠苑 梅田 紅雨  
もう 西川 藤象  
うる 岩田 誠華  
東実 吉田 真理  
〔現代詩〕  
蓮紅 大友 尚子  
大抽 島中 成山  
四谷 木原 尚子  
蓮紅 彩雨 洋龍  
〔漢字〕  
竜泉 小林  
千葉 竹浪  
英峰 吉瀬  
〔臨書の部〕  
千葉 叙舟  
渡辺 秋湖

創作の部(62点)	前衛(20点)	漢字(13点)	かな(6点)	現代(23点)	漢字(22点)	かな(2点)
86点	篆刻 10点	篆刻 20点	篆刻 13点	篆刻 6点	篆刻 23点	篆刻 22点

選評 竹田尚堂

今月のホープ作品



千葉紅雲

漢字研究部 特選 千葉 紅雲

ゆったりとした構えと勁さを藏したあたたかい線で、豊かさまでも的確に表現され、「外柔」「内剛」とも具わる佳臨に魅かれます。古典への真摯な向き合い方に共感を覚えます。更に落款にも意を注がれる様望みます。

◎漢字研究部総評

学書者必修の古典だけに、特徴を捉えた作

が多数ある反面、丁寧さに欠ける作も多数です。「外柔内剛」の両方を得ることは至難です。字形や表面の穏やかさだけを追つても、骨格や勁く伸びやかな書線を伴わないと、似て非なるものになります。勁さだけを求めて同様です。感覚を鋭敏にして法帖を見て取り、観察し、起筆、転折、收筆の用筆を見て取り、この繰返しで書き込むことが肝要です。



清杏珠蒼寛悦  
子邑雪洋子子

貞正友和白茂香  
子江里子鈴夫

煌珀昌蕙岱雅  
泉燁子陸雲風

菊皓美初雅  
枝泉き梢江子

かな研究部  
(高野切第二種)

選評 田村澄子

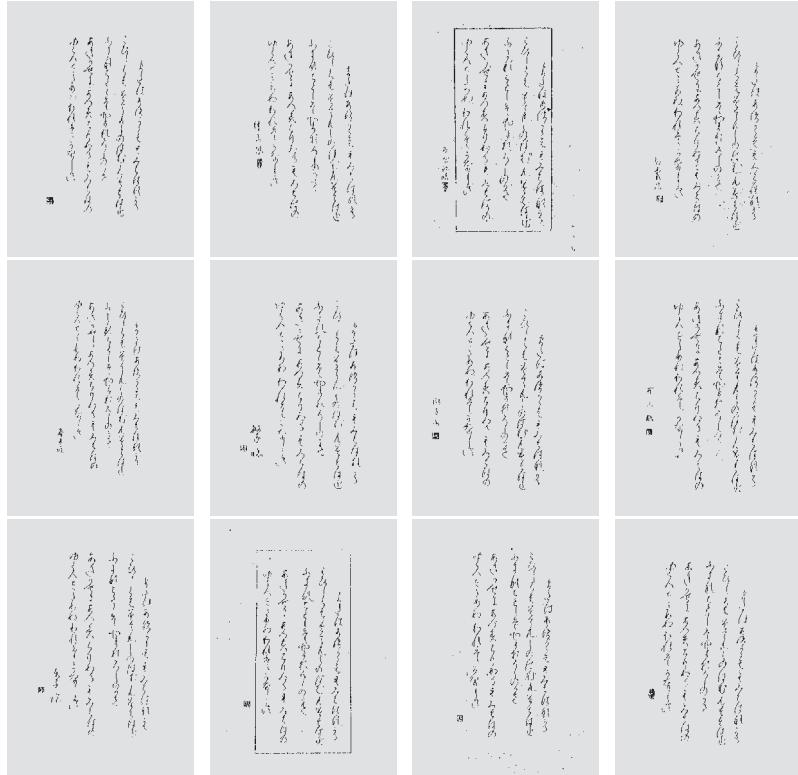
今月のホープ作品

筆者略歴  
名前

松丸愛石

◎かな研究部総評  
古筆の勉強は楽しいです。しかしよく変体かなを把握して下さい。誤字が多くあつたのが残念でした。佳作です。

かな研究部 特選 松丸 愛石



東寿博  
子子舟

龍敏律  
博子子

蘆淑みな  
城子江

真可紅  
蘭三霞

澄秀千 正有高 春明葉 華秋嶺 秀  
こ上奥蘭うや高秀岩昭調清影う千章彩や如樹電紅泉玉石  
だ泉田鼎るま井水沼徵布月  
岩岩猪伊石新瀬崎又藤橋川井美祥洋理英知洋知園子屬子子枝  
大演小飯齋襖門石宇武大岸進戸森伊山金近浅茂田権松  
石田林板橋高藤田崎野藤和田藤村田藤口子藤川木野本丸  
み星陽純か幹つ和信正華慧東寿博龍敏律蘆淑な真可紅愛  
祥一風くら生え子子泉睦江子子舟博子子城子江蘭三霞石  
こ東千高A翠遊小雲石五度 竜澄顧湘英八章高清椿う英蘭竹竜芭大玉澄彩石  
だ実葉崎I吟雲汀溪舟葉辺 泉春綠南峰街泉崎月翠る峰鼎扇泉書阪松春  
五吉作 吉村松藤長西永仲内都田高泉新志佐佐佐櫻酒小小木吉川河加小小大小内  
田田浦村谷澤瀬西藤丸口橋水行水藤藤々田井林林村瀬崎岡藤野川岡嶋田寺  
川みふ由木  
八松遊も高街村雲く陵入 明竹蓮華五梵澄生高千大澄有秀や前幕洞秀正卿泉生大や春竜芭  
漢美紅葉春澄大井葉阪春秋水ま橋張書歌華水月会大阪ま光泉瑤葉  
足阿赤青會助久星木木澤実隆文啓勇枝華庵子介  
吉横遊山森三宮丸松松増福平春林濱長永富津辻田田高鈴鈴波塗櫻齋後木北菅川川加奥江梅確字今伊礪石橋  
田山佐崎田宅内山田重佐田島田山田島井澤田村中玉橋木木谷崎田藤藤原村野本田藤山田井村藤貝喜  
千タ和理喜  
鶴蘭紅桜睦白喜真代翠白華キ歌美勝玉竹一宏憲幸洋春美哲久利智愛明智翠良輝惠靜南溫翠茂久  
子舟雅江子揚平翠子景鉢秀子和美雪華水枝子子華枝子子舟代汀子陽峰夫子弘麗泉佑羅子  
明弘う硯八昆玉た昌春英京翠館蒼大枝高大た 大竜遊大初生鬼琇大大華青大春秀高た東土久声う誉高石春大遊大千澄瑛上  
嶋波澁柴七穴塙猿佐佐齊近近小大小小河高黒吳楠岸菊葉神川河金加鹿押冲大大浦梅薄白岩岩今井犬石生池池飯飯新荒  
谷谷條倉澤藤々藤藤山山林沼瀬岡野武柳 本池池田島合岡藤山島森野部津田井渕倉門井上飼田駒田田黒井  
与由木喜  
祢美典翠裕和美冬初淳早松閑笙蕙萩初久久啓玄竹豊和萩美善典桂和萩雅裕純和喜礼代代春綾祥杏心む静道喜萩尚萩光紫洋玲  
子子泉美子紅華香子苗春窓洋子江風蕙子子城葉美心茜子高子子敬美芳子子代子子子綠乃苑奈麗つ香石子花古溪彩苑子  
竹京昌青琇高あ英艸春 幕白山大京高泉前秀大大土大樹秀高高土北遊洞春大艸遊大翠湘春土佑英春鄉幕澄 高山土誠春  
遷原橋苑峰頃陵か峰玄汀 張子王雲橋陵会橋歌阪雲氣阪原敵崎陵氣陸雲書汀玄阪玄雲雲柳南汀氣希峰汀州張春 陵王氣和汀  
外189渡吉吉吉山本村村富三松牧前堀堀堀北別藤藤福平比早秦根丹西西長中中富富德積近田田田辰宅高高住鈴杉新下  
名氏名略邊田田田吉山田野島野島切川井條府本井川山坂野本羽澤岡井村塚澤田澤永水池丸原中中本橋野吉木田谷田加  
澄佑翠光幸明龍珠津敏翠優代幸魯法靖信千智和優琴梅喜雅惠瑠悦久寬絢雅萩喜深雅柳貞惠梢蒼光都賢幸章和春祥翠代  
子子綾治蕙子香峰風枝子舟子子雲春子子波子香子清艸子子子美子仙子子彩夫仙雲芳子子鈴翠子子雲苑治子江風光子

かな研究部成績表

かな研究部成績表

竹澄正幕東広N こ樹清高前澄竜N 大生美春泉華張向島H こ原月真橋春泉H 雲大

足阿赤青會助久星木木澤実隆文啓勇枝華庵子介  
吉横遊山森三宮丸松松増福平春林濱長永富津辻田田高鈴鈴波塗櫻齋後木北菅川川加奥江梅確字今伊礪石橋  
田山佐崎田宅内山田重佐田島田山田島井澤田村中玉橋木木谷崎田藤藤原村野本田藤山田井村藤貝喜  
千タ和理喜  
鶴蘭紅桜睦白喜真代翠白華キ歌美勝玉竹一宏憲幸洋春美哲久利智愛明智翠良輝惠靜南溫翠茂久  
子舟雅江子揚平翠子景鉢秀子和美雪華水枝子子華枝子子舟代汀子陽峰夫子弘麗泉佑羅子

明弘う硯八昆玉た昌春英京翠館蒼大枝高大た 大竜遊大初生鬼琇大大華青大春秀高た東土久声う誉高石春大遊大千澄瑛上  
嶋波澁柴七穴塙猿佐佐齊近近小大小小河高黒吳楠岸菊葉神川河金加鹿押冲大大浦梅薄白岩岩今井犬石生池池飯飯新荒  
谷谷條倉澤藤々藤藤山山林沼瀬岡野武柳 本池池田島合岡藤山島森野部津田井渕倉門井上飼田駒田田黒井  
与由木喜  
祢美典翠裕和美冬初淳早松閑笙蕙萩初久久啓玄竹豊和萩美善典桂和萩雅裕純和喜礼代代春綾祥杏心む静道喜萩尚萩光紫洋玲  
子子泉美子紅華香子苗春窓洋子江風蕙子子城葉美心茜子高子子敬美芳子子代子子子綠乃苑奈麗つ香石子花古溪彩苑子

竹京昌青琇高あ英艸春 幕白山大京高泉前秀大大土大樹秀高高土北遊洞春大艸遊大翠湘春土佑英春鄉幕澄 高山土誠春  
遷原橋苑峰頃陵か峰玄汀 張子王雲橋陵会橋歌阪雲氣阪原敵崎陵氣陸雲書汀玄阪玄雲雲柳南汀氣希峰汀州張春 陵王氣和汀  
外189渡吉吉吉山本村村富三松牧前堀堀堀北別藤藤福平比早秦根丹西西長中中富富德積近田田田辰宅高高住鈴杉新下  
名氏名略邊田田田吉山田野島野島切川井條府本井川山坂野本羽澤岡井村塚澤田澤永水池丸原中中本橋野吉木田谷田加  
澄佑翠光幸明龍珠津敏翠優代幸魯法靖信千智和優琴梅喜雅惠瑠悦久寬絢雅萩喜深雅柳貞惠梢蒼光都賢幸章和春祥翠代  
子子綾治蕙子香峰風枝子舟子子雲春子子波子香子清艸子子子美子仙子子彩夫仙雲芳子子鈴翠子子雲苑治子江風光子